

《「特別の教科 道徳」の完全実施に向けて》

「考え、議論する道徳」スタートブック vol.2

～問題解決的な学習・道徳的な行為に関する
体験的な学習を取り入れた授業づくりを！～



どのように授業は変わるの？

気持ちを読み取るだけではなく、「質の高い多様な指導方法」による授業が求められているんだね。



「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）（平成28年7月22日）を基に作成

指導方法の一例	✕ 登場人物の心情理解のみの指導	登場人物への ※自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	✕ 主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い
発問例	教師の主な	① 主人公はどんな思いで行動したのだろう？ ② 主人公の行為に賛成ですか？	① 何が問題なのですか？ ② どうすれば解決できますか？	① 実際に役割演技をしてみよう。 ② 何が難しかったですか？	

※ 登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考える学習

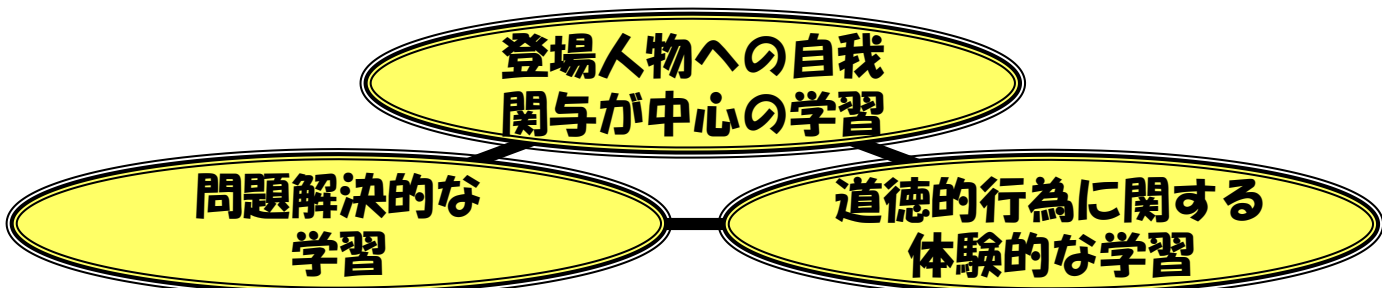
3つの指導方法の関係は？

3つの指導方法を資料に合わせて適切に位置づけることが大切なんだね。



以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。それぞれに様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）より



次のページから、それぞれの指導方法のポイントと実践例が掲載されているよ！



登場人物への自我関与が中心の学習



登場人物の判断や心情を自分と
比べることで、道徳的価値の
理解を深めることができるわ。

価値を深める発問

主人公はそんな思い
を大切にしたんだな。

理由の交流

なぜ、そう考えたか教
えて。ぼくはね…。

立場の視覚化

あれ？ 考えが、違う
人もいるみたいだぞ。

立場を決定する発問

私も主人公に
賛成だな。みんなは？

教材の登場人物の気持ちの
読み取りばかりの授業になっているな。



導入	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ・生活場面の振り返り <p>どうしたら？ 大切なことは？ 必要な心は？</p>	
展開前	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の整理(カード等を活用し短時間で) ・問題場面の整理(①未実現、②不十分、誤解、③自己の葛藤、④価値葛藤) 	
	○立場を決定する発問	
	A「主人公に賛成？」(価値理解)	B「あなたはできる？」(人間理解)
	<ul style="list-style-type: none"> ・立場の視覚化(表現ツール) ・理由の交流 ・それぞれの立場の理由を整理 	
○内容項目の理解を深める発問		
A「主人公が〇〇といった行為をとったのは、なぜですか？」 →行為を支える価値理解の深化		B「主人公が〇〇といった行為をできたのは、なぜですか？」 →行為を支える人間理解の深化
展開後	今までの自分、これからの自分	
終末	説話 <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 「考え、議論する道徳」スタートブックvol.1に 詳しい実践事例が掲載されているよ！ </div>	



問題解決的な学習

単に子どもの考えた解決策を出し合うだけではなく、それぞれの考えを吟味することが大切です。次のページの表を参考に、「吟味する発問」を考えてみましょう。



主体的に道徳的な問題を
解決するための資質や能力を
育てることができるな。

吟味する発問



みんなが
嬉しいのは？
共通の考えは？

理由の交流



どうして、そう考
えたの？教えて。
ぼくはね…。

解決策の視覚化



あれ？ 考えが、
違う人もいる
みたいだぞ。

解決策を考える発問



私はこんな方法
がいいと思うな。
みんなはどう？

実際の生活の中でもっと
道徳で学んだことを発揮できる
子どもを育てていきたいわ。



問題解決的な学習の学習過程

導入	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ・生活場面の振り返り <p>どうしたら？ 大切なことは？ 必要な心は？</p>										
展開前	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の整理(カード等を活用し短時間で) ・問題場面の整理(①未実現、②不十分、誤解、③自己の葛藤、④価値葛藤) <p>○解決策を考える発問 「あなたならどうしますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決策の視覚化(表現ツール) ・理由の交流 <p>○吟味する発問(以下から1~2つを活用)</p> <table border="1" data-bbox="305 1218 1343 1788"> <tr> <td>価値理解</td> <td>どれが？ なぜ？ もし？ 【効果】 【因果】 【結果】</td> </tr> <tr> <td>人間理解</td> <td>どうしたら？ どれなら？ 自分も？ 【譲歩】 【選択】 【可逆】</td> </tr> <tr> <td>他者理解</td> <td>みんなが？ いつも？ 【互惠】 【普遍】</td> </tr> <tr> <td>自己理解</td> <td>あなたに必要なのは？</td> </tr> <tr> <td>自然理解</td> <td>環境にとって？ 生き物にとって？</td> </tr> </table>	価値理解	どれが？ なぜ？ もし？ 【効果】 【因果】 【結果】	人間理解	どうしたら？ どれなら？ 自分も？ 【譲歩】 【選択】 【可逆】	他者理解	みんなが？ いつも？ 【互惠】 【普遍】	自己理解	あなたに必要なのは？	自然理解	環境にとって？ 生き物にとって？
価値理解	どれが？ なぜ？ もし？ 【効果】 【因果】 【結果】										
人間理解	どうしたら？ どれなら？ 自分も？ 【譲歩】 【選択】 【可逆】										
他者理解	みんなが？ いつも？ 【互惠】 【普遍】										
自己理解	あなたに必要なのは？										
自然理解	環境にとって？ 生き物にとって？										
展開後	今までの自分、これからの自分										
終末	説話										

やってみよう！問題解決的な学習の授業①

どちらの考えにもよいところはあったけれど、
立場を変えることで解決方法を見出すことができた！

実践学年	小4年	内容項目	B 友情、信頼
主題名	友だちならどうする	資料名	絵はがきと切手(文溪堂)
ねらい	友だちとして、相手のことを考えるならどうすべきかを考えることで、注意しあったり、違った意見を言ったりすることのできる関係を作っていくとする心情を育てることができるようになる。		

主な発問

導入

「友だちなのに間違いを伝えられなかったことがありますか。」

- ・気まずくなりそう。
- ・相手を嫌な気持ちにさせそう。



展開前段

「あなただったら絵はがきの金額が間違っていたことを正子さんに伝えますか。」

【伝えない】

- ・せっかく送ってくれたのだから言わない方が親切。
- ・いい関係を崩したくない。

【伝える】

- ・知らせなければ間違いを繰り返してしまう。
- ・友だちだから伝えた方の気持ちも分かってくれるだろう。



「あなたが正子さんだったら本当のことを伝えてほしいですか。」

- ・教えてほしい。ずっと間違っただけだと困る。
- ・勇気を出して言ってくれたのだと思って伝えてくれてありがとうという気持ちになる。

展開後段

「みんなも友だちだからこそ伝えてあげたことはありませんか。」

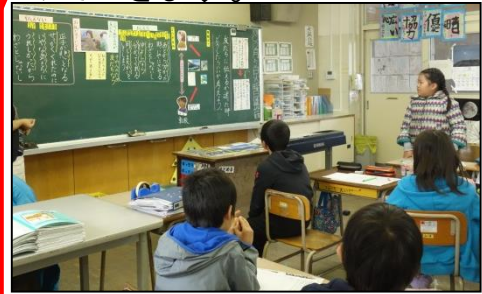
終末

「今日の学習をふり返って考えたことや感じたことを書きましょう。」

ポイント！

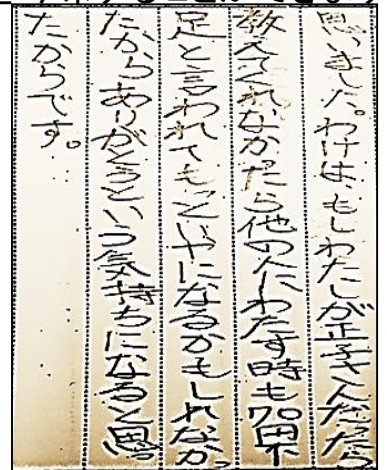
○理由の交流

ネームカードを使って自分の立場を明らかにし、それぞれ自分の考えと根拠を発表します。「〇〇さんは△△と言ったけど…」など、相手の考えと比較しながら考えを深めていきます。



○吟味する発問

【可逆】の視点で、伝える立場から伝えられる立場に立って考えさせます。視点を変えることで、よりよい行為を吟味することができます。



やってみよう！問題解決的な学習の授業②

一人一人の考えを吟味することによって、
みんなが安心できる解決方法を見出すことができた！

実践学年	中3年	内容項目	C 社会連帯の自覚
主題名	よりよい社会の実現	資料名	バスと赤ちゃん(あかつき)
ねらい	公共の場で誰もが安心して過ごせる環境をつくるためにはどうすればよいかを考え、それを実行しようとする心情をそだてることができるようにする。		

主な発問

導入

「赤ちゃんにどんなイメージを持っていますか。」

- ・かわいい。
- ・泣いたら面倒くさい。



展開前段

「運転手はなぜ、母親に“目的地はここですか”と聞いたのだろうか。」

- ・母親が周囲に気を遣って降りていると思ったから。
- ・寒い中バスを降りようとする母子が心配になったから。

「あなたが母親なら、バスを降りますか。」

- ・降りる・・・22人(周りに迷惑だから)
- ・降りない・・・1人(お金を払っているから)
- ・分からない・・・7人



「バスを降りようとした母親の行動は当然のことだろうか、必要ないことだろうか。」

- ・当然: 周りに迷惑、泣くならば仕方ない
- ・必要ない: 泣くのは当たり前、公共の乗り物

展開後段

「母子が降りなくてすむようにと、周りの人に向けて運転手はどんな言葉をかけたのだろうか。」

- ・母子が安心して乗ってられるよう、みなさん、赤ちゃんをあやしたり声をかけたりしてください。
- ・みなさん、温かい目で見守ってください。
- ・迷惑がかかると考えて、目的地でもないのに降りようとしています。皆様ご協力をお願いします。

終末

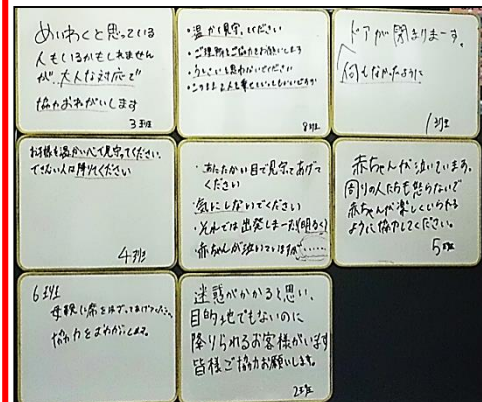
「学習を振り返り、これまでの自分と比較しながら、これからの行動について考えよう。」

ポイント！

○場面と問題の整理

周りのことを考えてバスを降りるといふ行為を母親と乗客といった複数の立場から物事を捉え、考え方や認識のズレを明確にすることで、問題状況をはっきりさせ、解決すべき課題を把握させることができます。

○吟味する発問



生徒から出された考えを

- ①母親が安心する【効果】、
- ②乗客皆が納得する【効果】、
- ③互いにとって【互惠】、

といった段階を踏んだ「吟味する発問」によって根拠を交流することで、考えがさらに深まり、道徳的な問題を解決する資質や能力を育てることにつながります。

道徳的な行為に関する 体験的な学習



道徳的価値の理解を深め、
道徳的な問題を解決する資質や
能力を育てることができるわ。

**C 価値を実感・活用
する動作化・役割演技**

学びを活かすと、
どうしたらいいだ
ろう？



**B 実践的に問題を
解決する役割演技**

自分だったら、
なんて声をかけ
たらいいかな？



**A 場面を把握・考察
する動作化・役割演技**

私も主人公と同
じように感じた。
みんなはどう？



実際の生活の中でもっと
道徳で学んだことを発揮できる
子どもを育てていきたいな。



道徳的な行為に関する 体験的な学習の学習過程



ABC全ての活動を位置づけなければいけないわけではありません。動作化や役割演技に取り組むと、資料を読んだり、書いたことを発表するだけでは気付かないことが見えてきます。

導入	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ・生活場面の振り返り <p>どうしたら？ 大切なことは？ 必要な心は？</p>
展開前	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の整理(カード等を活用し短時間で) <p>A 道徳的な問題場面を把握、考察するための動作化、役割演技</p> <p>「どんな気持ちで〇〇を言い(し)ましたか？」 「やってみて、どんなところが困りましたか？」 「どうして〇〇と言った(した)のですか？」</p> <p>B 実践的な問題解決的な学習にするための役割演技</p> <p>「あなたなら、どのように行動しますか？ やってみてください。」</p> <p>→問題解決的な学習の「吟味する発問」</p>
展開後	<p>C 見出した価値の実践的な理解や実生活への活用のための動作化、役割演技</p> <p>「やってみて、どんな気持ちになりましたか？」 「こんなことがあったら、どうしますか？」</p>
終末	説話

やってみよう！体験的な学習の授業①

A 場面を把握・考察
する動作化・役割演技

教師との役割演技を通して、
自分の言葉で涙の意味を表現することができた！

実践学年	小1年	内容項目	B 友情、信頼
主題名	なかよく助け合う心	資料名	くりのみ(学研)
ねらい	2つしかないくりのみを1つあげたうさぎの優しさに触れ、涙を流すきつねの気持ちを考えることで、友達となかよく助け合おうとする心情を育てることができるようにする。		

主な発問

導入

「友達を助けることができる人がこのクラスにはたくさんいます。友達となかよく助け合う心を今よりももっと大きくしましょう。」

展開前段

「みんなは、どんなことを考えながらどんぐりを隠しましたか。」

- ・これで絶対誰にも見つからないぞ。
- ・また明日も食べることができるから嬉しいなあ。



「きつねさんは目から涙をぽろっとこぼしながら、この後うさぎさんにどんなお話をするでしょう。」

- ・嘘をついてごめんね・・・。(反省)



「なぜ本当のことを話してくれたの。」(問い返し)



- ・だって、優しくかったから。ありがとう。(感謝)
今度どんぐりを隠した場所を教えるね。一緒にどんぐりを食べようね。(これから)

展開後段

「みんなの中にも、うさぎさんのように困っている友達を助けた人はいますか。」

- ・算数の学び合いの時に・・・。
- ・牛乳をこぼした時に・・・。



終末

「先生と先生の友達のように、仲良く助け合う心をもっと大きくして欲しいなと思います。」

ポイント！

○道徳的な問題場面を考察するための役割演技

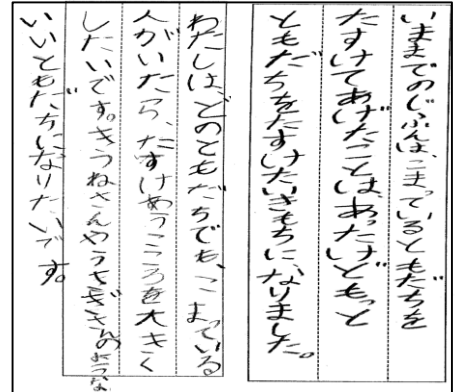
具体物を用いて場面を把握させる工夫

低学年では、小道具やお面があると、より感情移入がしやすくなります。



「問い返し」で思考を深める工夫

プリントに書いたことだけでは思考が浅い子どもも、「なぜ～？」と問い返しの発問をすることで、自分の言葉で台詞を考え、思考に深まりが得られます。



やってみよう！体験的な学習の授業②

A 場面を把握・考察
する動作化・役割演技

だれもが緊張する問題場面を把握することで、
自分の弱い心を見つめることができた！

実践学年	中1年	内容項目	B 友情、信頼
主題名	失敗の後に...	資料名	オリンピックの魔物(自作)
ねらい	互いに認め、励ましあうことの大切さを考えることで、真の友情を培おうとする心情を育てることができるようにする。		

主な発問

導入

「金メダルについて考えよう。」

- ・70億人の中で一番にならないといけない。
- ・長い時間、メダルに向かって練習している。



展開前段

「原田選手が飛ぶ直前、三人の選手はどんな気持ちだったのだろう。」

- ・きつとうまく飛んでくれるだろう。
- ・もう、金メダルはまちがいない。



「原田選手がジャンプに失敗した時、三人の選手はどんな気持ちだったのだろう。」

- ・あ～あ、金メダルが・・・。
- ・何てことをしてくれたんだ。

「原田選手が失敗した時の様子を再現し、三人の選手の立場になって動作化をしてみよう。」

- ・次、頑張ればいいよ。
- ・僕たちの頑張りはどうなるの。
- ・励ましたい気持ちはあるけれど、その瞬間は、責めてしまう心がどうしても出てしまうと思う。

展開後段

～この後、実際の映像を視聴～

「なぜ原田選手を責めなかったのだろう。」

- ・一生懸命やった結果だから。
- ・自分もたぶん緊張して失敗したかもしれないから。



終末

「今日の授業で考えたことを書こう。」

- ・自分が失敗した時、励ましてもらい、うれしかった。

ポイント！

○道徳的な問題場面を把握するための動作化
動画を用いて場面を把握させる工夫

動画を見せたり、教師がナレーションを加えたりすることで、子どもは登場人物の心情に共感しやすくなります。(例:挿絵・音・匂い・動き等)



○道徳的問題場面を考察するための役割演技
「問い返し」で思考を深める工夫

動作化の中で、子どもの言葉や動きの違いがあったら、「どうして」「なぜ、違うの」と問い返しを行うことで、弱い心の存在や重視した価値の違いを明らかにすることにつながります。

研究員のみなさん。検証授業を終えて、皆さんに伝えたいことはどんなことですか？



Q1 問題解決的な学習を行う上での資料の注意点は？

A. それぞれの資料に含まれる問題とその解決策を事前に教師自身がしっかり検討しておく必要があります。一つの問題の中に複数の価値が含まれているからです。その中で、この授業でどれを優先するのか確認しておくことが大事です。また、資料の提示の仕方も工夫できます。①全文を提示、②結末部分をカットする、③いくつかに分割して順番に提示するなどです。子どもの実態や教材解釈に合わせて、効果的な提示の仕方を考えてみてください。



Q2 問題解決的な学習の吟味する発問とは？

A. 「AかBか」という二者択一ではなく、様々な解決策を根拠とともに練り上げ、解決策がもたらす結果についても考えていくことが大切です。「自分だったら」と他者を自分に置き換えて可逆的に考えたり、視野を広げて「いつでも、どこでも、誰でも」と普遍的に捉えたり、「互いが納得するためには」「みんなのためにどうしたらよいか」などと互恵的な発問をしたりすることで、多面的・多角的に解決策を探っていくことができます。多様な解決策を比較検討することにつながる「吟味する発問」によって、ねらいとする道徳的価値に迫っていきましょう。



Q3 低学年で体験的な学習を行う時の注意点は？

A. 低学年の児童は、体験が少なく言語能力の乏しいことから、資料中の登場人物に共感しながら考えることが難しいです。そのために、具体的なイメージを膨らませながら、登場人物になりきる動作化や役割演技が効果的です。お面や小道具を用いながら実際に動いたり台詞を言ったりすることで、また、即効的に台詞を考えたりすることで、実感を伴いながら登場人物に自分を投影させ、ねらいとする道徳的価値を深めることができます。



Q4 中学生で体験的な学習を行うときの注意点は？

A. 体験的な学習を取り入れるにあたっては、体験的な行為や活動そのものを目的として行うのではなく、それらをもとに、道徳的価値の意義や意味について考えていくことが大切です。それによって生徒は、単に「知識」としてではなく、「実感」として、道徳的価値について考えを深めていくことができます。特に役割演技を取り入れた授業では、「雰囲気だけは楽しいが、ねらいが深まらない」授業にならないようにするために、演じたときに思ったり感じたりしたことを「問い返し」によって発表させることで、道徳的価値について、多面的・多角的に考えていくことができます。

ポイントをまとめたビデオや指導案、教具等がファイル共有サーバの教材用→調査研究→平成28年度及び平成29年度→「『考え、議論する道徳』スタートブック」に入っているよ。ぜひ、見てね！

【平成29年度 道徳教育研究班】

辻 千里(金丸小教諭)、江口 聡子(高良内小教諭)
鶴 弘幸(田主丸中主幹教諭)、田中 恵美子(荒木中教諭)
佐々木 保善・松澤 善明(教育センター指導主事)

久留米市教育センター
福岡県久留米市南1丁目8番1号
TEL:0942(36)9777/FAX:0942(35)9930

